

朝の礼拝

聖書 創世記 2章15節 (旧約聖書3頁)

15 主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。

耕し、守るように

私は東京都心で生まれ育ちましたが、幸い家も、周囲も豊かな緑に囲まれたところでした。小さい頃から外で遊ぶのが大好きで、土に水を混ぜて小さなボールのような泥団子を作り、意味もなくテカテカに光るまでこすっていました。幼い頃は土いじりに夢中で、泥んこになるまで遊んでいました。

天地創造の神話では、主なる神は人をエデンの園に住ませ、大地を耕し、守るようにと言われました。この耕すとは「仕える」、「僕として働く」という意味があります。土を耕すことはとても労力のいることです。しかし、そこはエデンと呼ばれていました。エデンとは「喜び」という意味です。エデンで主なる神と共に大地に仕える、僕として働くことは、苦勞ではなく喜びだという意味です。

近代から現代へかけて、人は自然と共に生きる道から遠ざかってきました。むしろ自然を破壊し、環境や人間自身にも害のあるものをもたらしました。そして今、地球規模の気候変動やプラスチックゴミの海洋汚染が大きな問題となっています。スウェーデンのある少女は、とうとう学校へ行っている場合ではないと学校を休み、ひとりで環境問題を訴え始めました。そして、今、その波が世界の子どもや若者の間に広がっています。

土をいじり、遊ぶことの楽しさを知っている子どもだから、現実の世界に驚きと不安を感じるのでしょうか。そして純粹に、今の地球は、人間のしていることはおかしいと思うのではないのでしょうか。自然の中で、自然と共に生きることは厳しいことです。でもその自然、大地を通して、主なる神は生きとし生けるもののかげがえのない命の尊さ、生かされていることの喜びを与えているのではないのでしょうか。

祈祷 祈りましょう

私たちを愛し、励まされる主よ。あなたは人をエデンの園に住ませ、そこを耕し、守るように言われました。どうか今日一日もあなたを信じ、互いに仕え、励まし合って歩ませて下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。 アーメン